

科目名	国際協力実践演習 II	担当教員	東智美・大嶋英一
科目属性	専門科目群 F	単位数	2 単位(面接 0.5 単位)
<p>【授業概要】</p> <p>国際協力の実践に関心を持つ受講生が、自己の活動に照らし合わせながら行う演習である。演習 II では、受講生が実践している現場での活動の課題をテキスト学習とスクーリングを通じて掘り下げ、活動にフィードバックすることを想定しているが、過去の行った活動やこれから行う活動を想定して取り組んでも構わない。また、ここでの「国際協力」は、海外における開発援助活動に限らず、国内における国際理解教育活動やボランティア活動なども含むものとする。</p> <p>授業の一つ目の柱は、ケース・メソッドを用いた、国際協力のアクターと課題についての考察である。具体的には、第一に、国際開発のケース教材を用いて、学修を進める。第二に、自己の活動を「ケース」としてまとめ、他の受講者と共有することで、課題を客観的に捉える。第三に、スクーリングでケース討論を行うことで、開発協力の課題についての多角的な視点から考察する。</p> <p>二つ目の柱は、国際協力におけるメタファシリテーションの手法の獲得である。テキスト学習を通じて、国際協力の現場でのコミュニケーションの課題と技法を学び、自己の活動への応用を試みる。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際開発協力の課題を多角的に捉える力と、国際協力に対する自らの考えを説明する力を向上させる。 2. 国際開発協力の実践課題を抽象化し、応用できるようになる。 3. 自己の国際協力の活動の課題や改善策を見つける。 			
<p>【授業計画】</p> <p>以下の学修の流れに沿って、ケース・メソッドを用いた国際協力の課題の考察、国際協力におけるメタファシリテーションの技法の習得、自己の活動へのフィードバックを行う。</p> <p>第1回 ケース・メソッドと国際開発 (テキスト①はじめに)</p> <p>第2回 ケース1 教育支援プロジェクト (テキスト①第3章)</p> <p>第3回 ケース2 保健衛生プロジェクト (テキスト①第5章)</p> <p>第4回 ケース3 参加型農村開発プロジェクト (テキスト①第7章)</p> <p>第5回 ケース4 少数民族プロジェクト (テキスト①第8章)</p> <p>第6回 ケース5 参加型森林管理プロジェクト (テキスト①第13章)</p> <p>第7回 ケース6 緊急支援プロジェクト (テキスト①第15章)</p> <p>第8回 「ケース」を創作する</p> <p>第9回 ケース討論1：テキストのケースに基づく討論 (スクーリング)</p> <p>第10回 ケース討論2：自分たちのケースに基づくディスカッション (スクーリング)</p> <p>第11回 国際協力における「メタファシリテーション」(テキスト②第1部)</p> <p>第12回 メタファシリテーションとコミュニティ (テキスト②第2部)</p> <p>第13回 メタファシリテーションの実践 (テキスト②第3部)</p> <p>第14回 メタファシリテーションを活動に取り入れる (スクーリング)</p> <p>第15回 まとめ：活動へのフィードバック</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>評価は、スクーリング評価 (25%)、レポート評価 (25%)、「科目修得試験」(50%) の割合で行います。</p>			
<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 山口しのぶ・毛利勝彦・国際開発高等教育機構編 (2011)『ケースで学国際開発』東信堂. - 和田信明・中田豊一 (2019)『途上国の人々との話し方：国際協力メタファシリテーションの手法』みずのわ出版. 			
<p>【参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> - ウィリアム・エレット (斎藤聖美訳) (2010)『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社. - 中田豊一 (2000)『ボランティア未来論：私が気づけば社会が変わる』コモンズ. 			